

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22720047

研究課題名（和文） 南アジア古代・中世における仏教説話図の受容と変容—建築空間と表象の相関をめぐって

研究課題名（英文） Reception and Development of the Depictions of Buddhist Narratives in the Ancient and Medieval South Asia—A Correlative Study between the Architectural space and the Representations

研究代表者

福山 泰子 (FUKUYAMA YASUKO)

龍谷大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：40513338

研究成果の概要（和文）：本研究ではインド、スリランカ等での仏教遺跡の調査を実施し、建築空間にみる仏教説話図の資料収集を行った。研究発表は主に『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』研究会にて、新出ジナンワリ・デリ出土壁画のアジャンター壁画との類似性を示し、また建築空間と仏伝主題との相関から普遍的仏陀観への過程を示すモチーフとして西インドでは宝冠を掲げるガナが看取されることを示した。これら成果は平成 25 年度研究成果公開促進費による『アジャンター後期壁画の研究』に含まれる予定である。

研究成果の概要（英文）：Several field surveys for the Buddhist sites were carried out in India, Sri Lanka and other countries, to collect the data of the representations of the Buddhist Narratives seen in the architecture. The papers of my research were presented at the research meetings of “Comprehensive Data Collection of Gandharan Art and its Integrated Study” (Grant-in-aid for Scientific Research (A) 202420003): one is on the newly discovered paintings from Jinan Wali Dheri, which show the remarkable similarities with the Ajanta paintings and the other is on the *ganas* carrying the crown over the head of the Buddha which could be a specific motif to indicate the process toward the cosmological Buddha. These papers will be included in the publication titled “Studies on the Ajanta Later Paintings,” which is supported by Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Results, JSPS (2013).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：アジャンター、ティヴァンカ、ガンダーラ、仏教説話、仏伝、建築

1. 研究開始当初の背景

インド仏教美術において、仏教説話美術の

占める割合は極めて大きい。それは研究にも比例して説話図に関する研究は、何らかの説

話主題に特化したものや、遺跡全体を取り上げるなかで言及されるものなど多様である。インド仏教美術研究は発掘調査等を含めれば2世紀の歴史があるが、先学の研究は多くの場合「表象」に限定したものであった。しかし、本来「表象」は「建築」、ここでは仏教建造物と一体のもので、「表象」は副次的産物でなく、必然性をもってそこに存在する。つまり、説話美術研究は、「建築」という空間、それも意識的に意味付けされた空間という視点をもって再評価される段階をむかえているといえる。また、建築空間は中央（中心）に対して周縁（周辺）というように階層性、時に従属性、連続性をもって存在し、その空間に表された説話図にも当然その性質を帯びているという考えから発している。

2. 研究の目的

本研究は、南アジア古代・中世における仏教説話図の受容と変容の様相を、建築空間という意味付けられた領域としての「場」と壁画や彫刻による「表象」の相関をめぐって提辞する。仏教説話図研究では従来、説話図が表された宗教建造物のその「場」から説話図を単独で切り離して抽出し、個々の単位で主題解明や表現方法の特徴等が論じられてきた。しかし本来、説話図は教化、礼拝、観想など宗教実践の場として重要な機能を有する建造物に中心的あるいは周縁的に同居する。本研究は、説話図がいかなる「場」-階層性・従属性・連続性といった性質の枠組みのもとに各時代・地域で受容され、変容を遂げるのか、その機能と意味を探ることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 公刊資料および申請書による撮影画像データをもとに紀元前1世紀の初期仏教美術以来からパーラ時代およびティヴァンカの仏教説話図について説話主題、大きさ、遺跡・建造物における位置、図像の特徴といった複数項目によって整理する一方、経律の記述を二方向から一(i)各仏教説話主題を扱う仏教経典とその箇所を抽出・整理、(ii)律文献から特に僧院や仏堂、ストゥーパなど仏教建造物に関する記述を抜粋・整理する。
(2) (1)を参照しつつ、実地調査を行い、建築空間を含めた画像・文献資料を収集し、撮影画像や調査メモ資料を統合整理する。
(3) 建築空間が本来的にもつ中央（中心）や周縁（周辺）といった階層性・従属性・連続性をそこに表された説話図に投影し、説話図像や場面構成・構図の空間的・観念的制約の諸相、さらに普遍的な図像や場面構成、あるいは何らかの増広・省略の様相を

追究しつつ、古代インドにおける仏教説話図の発生意義、その後の受容と変容の諸相を明確化する。

4. 研究成果

(1) 初年度は公刊資料 (J. Marshall, *The Monuments of Sanchi*, 3vols, 1940他) および研究代表者が現地で撮影した画像をもとに、説話主題や建造物における位置、図像の特徴について整理し、仏教経典における寺院の構成や寺院装飾の主題についての記述を整理した。また、調査期間や天候による制限もあり、現地調査はサーンチー、アジャンターのほか、ニューデリー国立博物館等において行った。またプネのデッカカレッジ図書館、バンドルカル東洋研究所では文献収集をはかった。研究成果として(汎アジアにおける仏教説話に関する国際学会)は、代表者が従来行ってきた研究成果を統合的に併せ、特に律文献にも明示される寺院建築において重要な説話である舎衛城の神変について、アジャンターでは仏殿前室における神変説話による叙述的表現による釈尊の存在の提示から、仏殿における説法印を結ぶ釈迦牟尼仏を色身を超越して法身として位置づける方向へと展開する様相を明らかにするとともに、近世以降のタイの仏教寺院の壁画に見る同主題が一連の釈尊の生涯の一場面としてのみ扱われるのに対して、ドヴァラヴァティー時代の彫刻は、少なからず5世紀以降のインドの影響を受けて、上記の叙述性と法身の両性質を有していることを併せて指摘した。舎衛城の神変は部派仏教、大乘などの枠を超える汎仏教主題であり、建築との相関から表現の特質を明示した。

Yasuko FUKUYAMA,

Iconographic development of the Miracle of Sravasti at the Ajanta caves, in: D. Dayalan (ed.), *SIVASRI: Perspectives in Indian Archaeology Art and Culture*, Agam Kala Prakashan, Delhi, 310p., 2013, 149-164.

(2) 平成23年度には、過去に研究課題としていたアジャンターの帝釈窟説法図について、ヴェランダという石窟の建築空間のなかでどのような機能を負うのか、また対象的位置にある生死輪廻図との内容的類似から相互に無関係な主題というのではなく、意図された構成である可能性を論じた。同図はこれまで未詳説話図とされていたが、図像的特徴からその主題比定も行った。同主題は紀元前1世紀の仏像不表現の時代からボドガヤやパールフット、サーンチー等にみられ、次代に

はマトゥラー、ガンダーラ、アマラーヴァティーにも作例が知られるが、それ以降アジャンターに至るまで見られなくなる。このアジャンターでのリバイバルは、ガンダーラ地方に見られるポスト・クシャーン朝時代の図像や同地出土の仏説法図が示す正面性の強い礼拝像形式の影響から理解する。「帝釈窟説法」では、この点を鑑みると、アジャンターの帝釈窟説法は観念的に、輪廻の輪から脱しようとする神の姿として一連の展開を見せ、十二処も説かれる。対面する「生死輪廻」とは、壁画主題としては別個のものであるが、輪廻図の内容を補強する役割も付加されていた可能性を指摘した。

上記の成果は以下の報告書に所収される。福山泰子「インドにおける「帝釈窟説法」図の図像的特徴について」平成 20 年度～平成 25 年度 科学研究費補助金基盤(A)『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』[20242003 研究代表者：龍谷大学・宮治昭]中間報告書 (2011.5), 199-210.

また、前年度に引き続き、パーリ仏典、特に『マハーヴァンサ』について仏教説話と寺院荘嚴の点から関連箇所(ドゥッタガーマニー王による寺院荘嚴 30.56-97)を抜粋する作業を行った(現在も作業を進行中であるが、今後の予定として仏典中の寺院荘嚴として発表したいと考えている)。

さらに東インドに分布するパーラ朝の遺構についても調査し、資料収集を実施した。

(3)平成 23 年度には、アジャンター等の調査に加えてインドのみならず、パキスタン調査の機会を得て(平成 24 年度も実施)、本研究に新たな視点を与えてくれ、下記の論文につながった。また最終年度には、スリランカでの現地調査も再度実施した。これらをもとに次の 2 件について研究発表を行った(2012 年 12 月 16 日基盤研究 A『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』「ガンダーラ・インドの仏教美術」/於：龍谷大学)。まず、ガンダーラで近年新たに発掘されたジナンワリ・デリ出土壁画が、同地域の彫刻や中央アジアの壁画が示す図像や様式とは異なり、アジャンター後期壁画に非常に類似する面を有し、同時期の制作の可能性、また説法印仏陀像であることから、アジャンターで流行する仏説法図との関連から西インドから西北インドへの図像の伝播がなされたことを指摘した。次に、アジャンターにみる授記説話や降魔成道など石窟内で特殊な位置に配された説話やアジャンター末期の仏説法浮彫図に、ガンダーラにみる花輪を掲げるプットの図像的影響を受けつつ、西インドでは宝冠を掲げるガナとして図中に現れ、しばしば仏陀への観念、地上の歴史的存在としてではなく、普遍性を有する仏陀観への過程を示すモ

ティーフとして把握できる。

石窟仏殿内における本尊はアジャンターでは初転法輪であり、仏伝前室には舎衛城の神変や従三十三天降下、降魔成道といった仏法や釈迦の存在に関連する主題が選択され、広間廻廊部には本生図とともに降魔成道以前のエピソードで充填される点は注目に値する。それが後世、エローラ仏教窟では仏殿本尊が初転法輪を主とする仏説法図像から、降魔成道に変化し、多くの菩薩像や過去七仏等と表されるようになる。時間軸と仏教パネオンの具体化・明確化が進む一方で、興隆するヒンドゥーとの対立が説話図像の中に組み込まれていくのである。

遺構がいかなる部派、宗派に帰属しているのかという問題とも関連するが、仏伝のみならず経変も含め仏教説話図と建築の相関は仏教寺院のあり方を考える上で今後も仏教美術史および仏教史の分野においても重要な問題である。

最後に、この点を含めた本研究成果の一部は、研究代表者のこれまでの研究と統合し、平成 25 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)による『アジャンター後期壁画の研究』として出版する予定である。

なお、上記の成果は下記の報告書に所収される。

福山泰子「ガンダーラにみる花環を掲げる飛天から西インドにおける宝冠を掲げる飛天へ」平成 20 年度～平成 25 年度 科学研究費補助金基盤(A)『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』[20242003 研究代表者：龍谷大学・宮治昭]報告書 Vol.II (2013.3), 415-432.

既に述べたように、仏教説話図研究のうちアジャンターに関連する論考については、今年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)による『アジャンター後期壁画の研究』に所収し、公刊予定であり、近年の研究成果を網羅したものとして少なからず意義を有すると考える。特に本研究に関連して明らかになった点として、アジャンターとガンダーラとの結びつきである。アジャンターについては従来南インドとの関連で議論されることが多かったが、必ずしもそうではないことが導かれた。

最後に本研究の今後の展望としては、仏教説話図に比してインド内部においても増加する多様な尊像、なかには多臂像の密教尊像も含まれるが、これらの尊像を含めたかたちで、寺院を荘嚴する諸要素の意義について考察する必要があると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔図書〕(計1件)

① Yasuko FUKUYAMA,
Iconographic development of the Miracle of
Sravasti at the Ajanta caves, in: D. Dayalan
(ed.), *SIVASRI : Perspectives in Indian
Archaeology Art and Culture*, Agam Kala
Prakashan, Delhi, 310p., 2013, 149-164.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福山 泰子 (FUKUYAMA YASUKO)
龍谷大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：40513338